

# 第1章 事業の目的

近年、歴史や文化を尊重し、環境に配慮した生活空間を希求する社会的要請を背景に、遺跡を活用した歴史学習、体験学習、環境学習の場として、「遺跡公園」の設置に対する要望が高まり、全国的にその整備が進んでいます。

このような社会的要請を受けて、文化庁では、平成19年に「埋蔵文化財行政の推進による地域づくり・ひとづくり」という新たな方向性を提示する報告書をまとめ、地方公共団体に対し、埋蔵文化財の公開・活用に重点をおいた施策を積極的に進めるよう求めています（『埋蔵文化財の保存と活用（報告）～地域づくり・ひとづくりを目指す埋蔵文化財保護行政～』平成19年2月1日）。

このような社会的な気運の高まりを踏まえた上で、本市では、札幌の特色ある文化財を積極的に活用していく方針のもと、札幌市農業体験交流施設サッポロさとらんど内に保存されている縄文文化の遺跡、H508遺跡<sup>※1</sup>を活用して、遺跡公園を整備することを計画しています。

H508遺跡は、サッポロさとらんど造成に先立ち、平成4・5年に実施した試掘調査によって発見され、その後、現地の地下に保存されてきた、市内でも有数の広がりをもつ縄文晩期<sup>※2</sup>の遺跡です。縄文文化の遺跡は、市内各所に分布していますが、このH508遺跡は、札幌の低地部に広がった環境に適応した人々のくらしの原形を表す遺跡と評価されています。

本事業は、札幌の縄文文化の魅力を発信するために、H508遺跡を適切に保存し、地域の歴史資源、文化資源、教育資源として、市民の皆様とともに、その価値を将来へと伝えていくことを目的としています。

この基本構想（案）は、以上の目的を踏まえて、遺跡公園の整備に向けた基本的な考え方をまとめたものです。

なお、基本構想の策定に向けて、遺跡の内容をわかりやすく発信することを目指して、H508遺跡をおかだまじょうもんいせき通称「丘珠縄文遺跡」<sup>※3</sup>と呼ぶこととし、この基本構想の名称を『「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想』とします。

※1) 「H508」（えっちごひゃくはち）とは、遺跡が所在する東区（「HIGASHIKU」）の頭文字である「H」と、札幌市内で508番目に遺跡として登録されたことを示す番号とを組み合わせた遺跡の名称です。

※2) 縄文文化は、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6期に区分されており、市内では早期～晩期の遺跡が見つかっています。以下、「縄文早期」、「縄文晩期」等と略して表記します。

※3) H508遺跡の通称名は、アイヌ語に由来し、町名として親しまれている「丘珠」に、縄文文化の遺跡であることを示す「縄文」を付けて、「丘珠縄文遺跡」とします。